

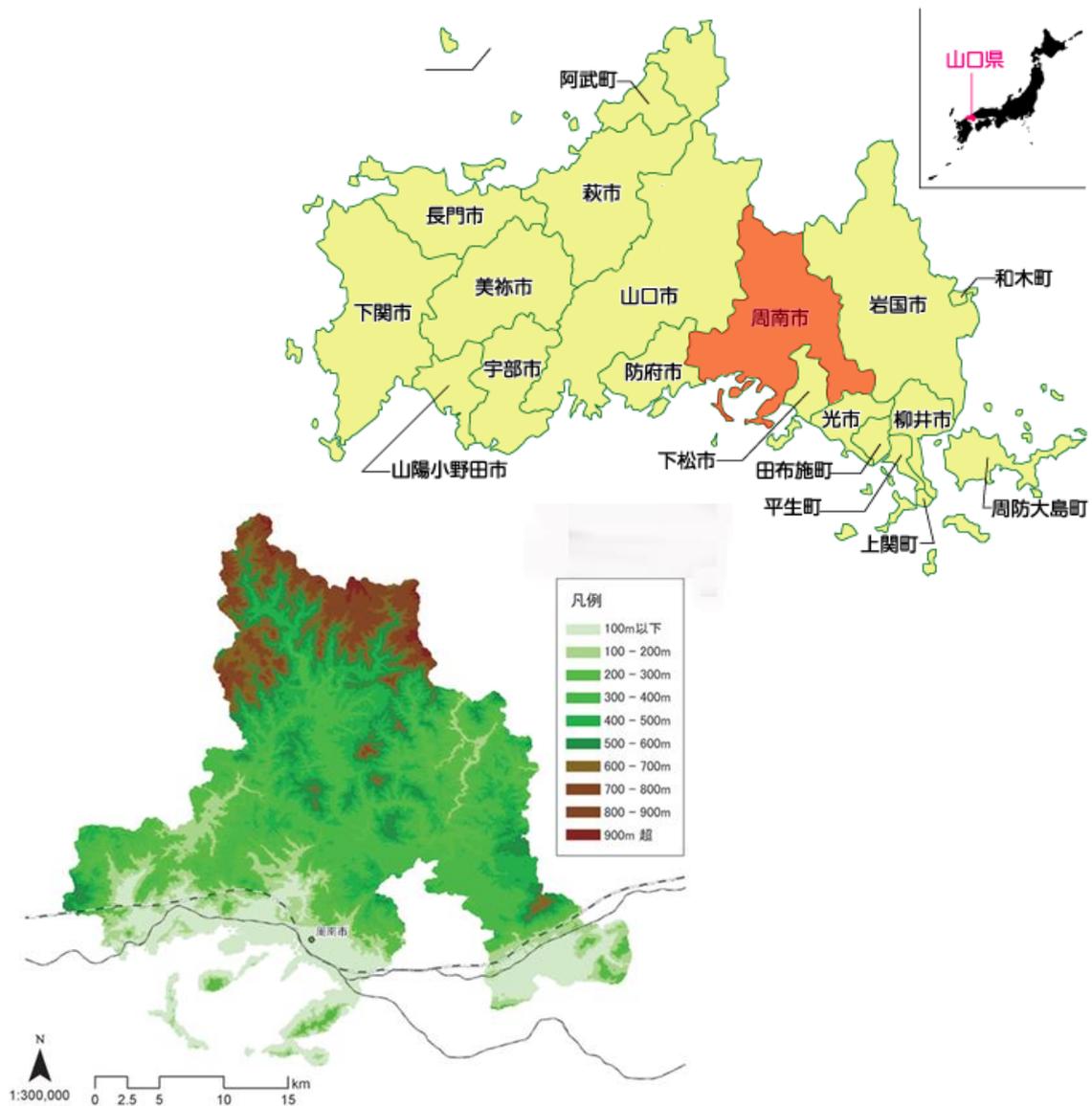
- 基本計画の名称：周南市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：山口県周南市
- 計画期間：令和2年4月～令和7年3月まで（5年）

## 1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

### [1] 周南市の概況

#### (1) 位置・地勢

本市は、山口県の東南部に位置し、北は島根県鹿足郡吉賀町、東は岩国市、光市及び下松市、西は山口市及び防府市と接する、人口142,588人（令和元年11月末現在）、面積656.29平方キロメートルの都市である。市域の北部には中国山地が広がり、瀬戸内海を臨む南部の半島部や島しょ部は瀬戸内海国立公園区域にも指定される美しい景観を有している。平野部の海岸線に沿って大規模な工場が立地し、それに接して東西に長い市街地が形成されている。市域の大半は山林で占められていて、宅地は27.23平方キロメートルと市域全体の約4.1パーセントである。



## (2) 沿革

本市は、中世において、大内氏、その滅亡後は毛利氏の支配下にあった周防国に属していた。江戸時代に、萩藩の支藩である徳山藩が置かれ、徳山藩の館を中心とした町並みが形成された。明治時代以降、天然の良港を活かして設置された海軍煉炭製造所（後の海軍燃料廠）とともに発展し、戦後は旧海軍施設の土地を利用して産業基盤の整備が進められ、昭和39年に「工業整備特別地域整備促進法」の適用を受けて、石油化学コンビナートを中心に工場の集積が進み、戦後の復興と併せて全国有数の工業地帯にまで発展した。

平成15年に、徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併して「周南市」が誕生し、「県勢発展をリードする一元気発信都市」の創造を基本目標として新たなまちづくりを進めている。

図 昭和10年の市街地



## (3) 産業

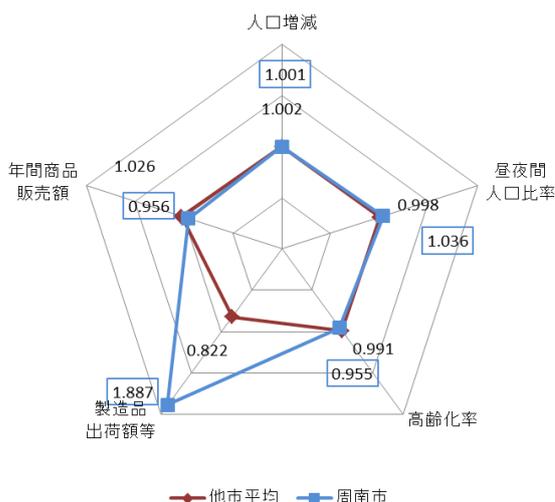
本市の産業構造を平成27年国勢調査における就業者割合で見ると、第1次産業3.1%、第2次産業30.2%、第3次産業63.7%となっており、全国平均（第1次産業4.0%、第2次産業25.0%、第3次産業71.0%）と比べて第2次産業の割合が高い。

第1次産業は、中山間地域を中心に米や野菜、果物、畜産物といった多種多様な農産物が生産されている。特に市北部では、その地形や気候を活かして、梨やぶどう、茶、わさびなどが栽培され、特色ある農業が展開されている。

第2次産業は、全国有数の石油化学コンビナートを中心に、化学や石油、鉄鋼等の基礎素材型産業を核として発展してきており、平成29年工業統計調査による製造品等出荷額は約1兆1,006億円と県全体の約5分の1を占め、山口県の工業の中心的役割を果たしている。

第3次産業は、古くから多くの企業が立地していたため、JR徳山駅周辺に県下有数の小売業等が集積立地する繁華街が形成され発展してきたが、近年は、企業の事業所の統廃合による市外への支店等の移転や市外の郊外型商業施設の利用が増え、低迷している。

### 県内他市との比較



- ①人口増減: 山口県の H27/H22年人口比率 96.8%を1.0としたときの人口増減比率を比較。
- ②昼夜間人口比率: 山口県の平成27年昼夜間人口比率99.6%を1.0としたときの昼夜間人口比率を比較。
- ③高齢化: 山口県の平成27年の高齢化率31.9%を1.0としたときの高齢化率を比較。
- ④人口1人当たり製造品出荷額等: 山口県の平成29年の人口1人当たり製造品出荷額等401.7万円/人を1.0としたときの人口1人当たり製造品出荷額を比較。
- ⑤人口1人当たり年間商品販売額: 山口県の平成28年の人口1人当たり年間販売額100.5万円/人を1.0としたときの人口1人当たり年間商品販売額を比較。

	人口			人口流動		高齢化		製造業		小売業	
	平成22年人口 (人)	平成27年人口 (人)	H27/H22人口比率 (%)	平成27年昼間人口 (人)	昼夜間人口比率 (%)	平成27年高齢者人口 (人)	高齢化率 (%)	平成29年製造品出荷額等 (百万円)	人口1人当たり出荷額 (万円/人)	平成28年年間商品販売額 (百万円)	人口1人当たり販売額 (万円/人)
山口県合計	1,451,338	1,404,729	96.8%	1,399,109	99.6%	447,862	31.9%	5,609,000	401.7	1,415,814	100.5
下関市	280,947	268,517	95.6%	264,983	98.7%	88,073	32.8%	516,445	193.8	269,907	100.2
宇部市	173,772	169,429	97.5%	169,768	100.2%	51,303	30.3%	430,733	258.2	168,466	100.1
山口市	196,628	197,422	100.4%	200,470	101.5%	53,325	27.0%	177,190	91.7	219,026	113.0
萩市	53,747	49,560	92.2%	48,806	98.5%	19,591	39.5%	22,335	45.8	46,829	94.1
防府市	116,611	115,942	99.4%	114,164	98.5%	33,582	29.0%	988,072	846.9	114,930	98.1
下松市	55,012	55,812	101.5%	56,355	101.0%	15,875	28.4%	282,706	493.6	84,184	148.4
岩国市	143,857	136,757	95.1%	135,718	99.2%	45,401	33.2%	323,674	236.7	135,706	98.1
光市	53,004	51,369	96.9%	48,930	95.3%	17,289	33.7%	429,277	828.2	43,106	82.4
長門市	38,349	35,439	92.4%	34,753	98.1%	14,070	39.7%	63,205	181.1	33,936	95.4
柳井市	34,730	32,945	94.9%	34,013	103.2%	12,008	36.4%	31,337	96.4	45,714	139.1
美祿市	28,630	26,159	91.4%	26,572	101.6%	9,887	37.8%	111,850	444.8	20,827	81.3
周南市	149,487	144,842	96.9%	149,470	103.2%	44,114	30.5%	1,100,630	758.1	140,809	96.1
山陽小野田市	64,550	62,671	97.1%	60,679	96.8%	19,537	31.2%	566,555	890.5	59,119	92.3
他市合計	1,239,837	1,202,022	97.0%	1,195,211	99.4%	379,941	31.6%	3,943,379	330.3	1,241,750	103.1

※現時点の市域に基づく数値に換算している。

資料: 国勢調査、工業統計調査、経済センサス-活動調査、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

## [2] 中心市街地の概況

### (1) 中心市街地の概要

本市の市街地は、沿岸部の工場地帯と北部の山地部に挟まれ、南北に狭く東西に細長い形状をしている。江戸時代に、萩藩の支藩である徳山藩の館が下松から野上村の金剛山麓に移転され、地名が徳山に改められた。この徳山開府に伴って家中諸士の屋敷割が行われ、この時に城下町としての基盤が整えられた。明治期には、沿岸部に海軍煉炭製造所が設置されたことを契機に工業都市化が進み、これに伴って中心市街地も地域の行政・商業・サービスの中心地として栄えた。太平洋戦争中は徳山港が海軍要港に指定されていたことから、戦争末期には二度の空襲により徳山の市街地の大半が焼失したが、終戦直後の戦災復興土地地区画整理事業により、現在の中心市街地の都市基盤が形成された。また、JR徳山駅を中心に商業地や業務地、住宅地が形成され、市役所をはじめ、図書館、山口県周南総合庁舎、小学校、幼稚園、徳山港、公園、郵便局、金融機関、医療機関など各種公共公益施設が集積している。

こうした高度な都市機能を背景に、山口県最大の商業地として本市の中心市街地は大きく発展してきた。近年は中心商店街の空洞化が進むなど、かつてのにぎわいが失われてきたが、平成30年の徳山駅前賑わい交流施設及び徳山駅前図書館のオープンにより、にぎわいを取り戻しつつある。また、分散していた市の機能も、平成30年の市役所新庁舎供用開始により集約された。

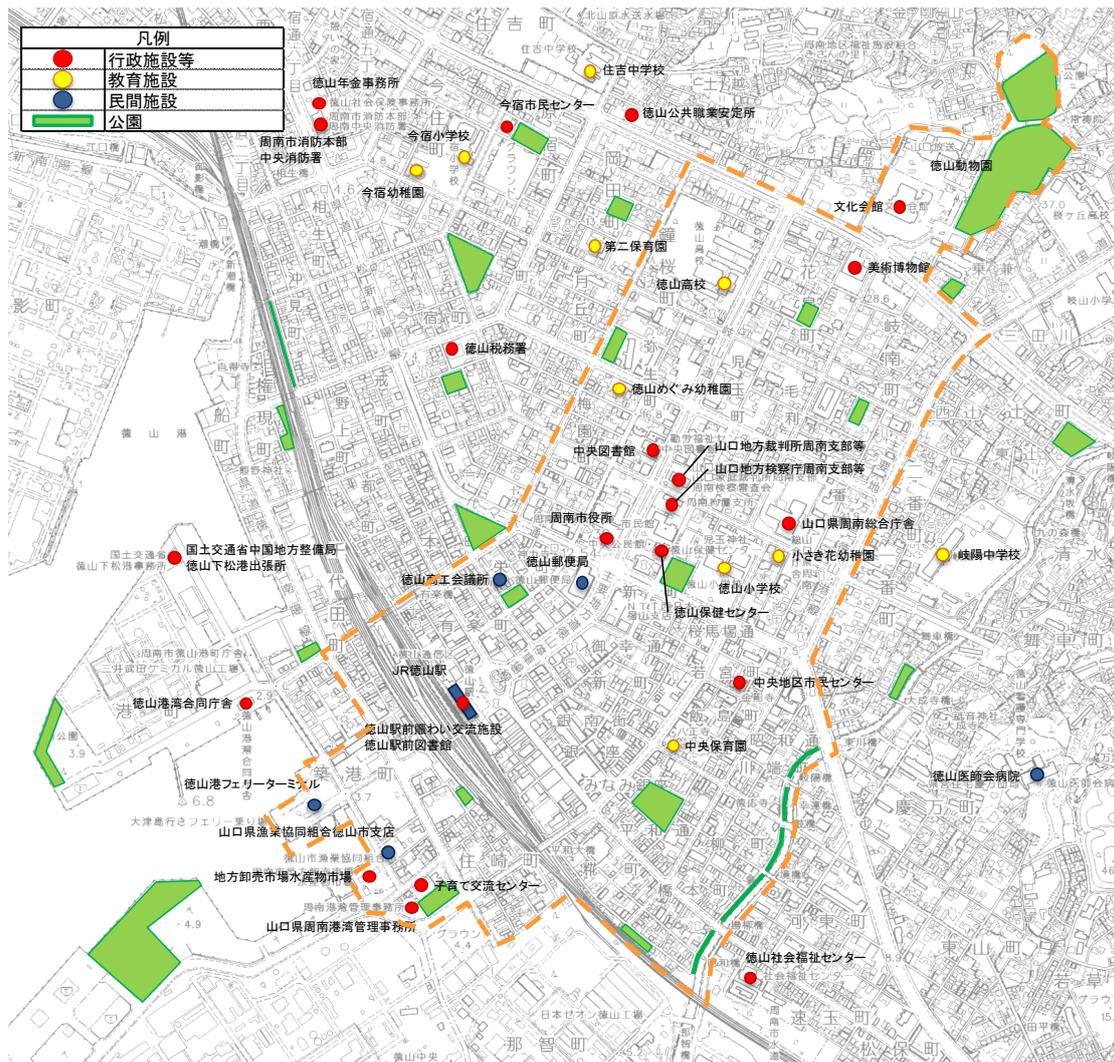
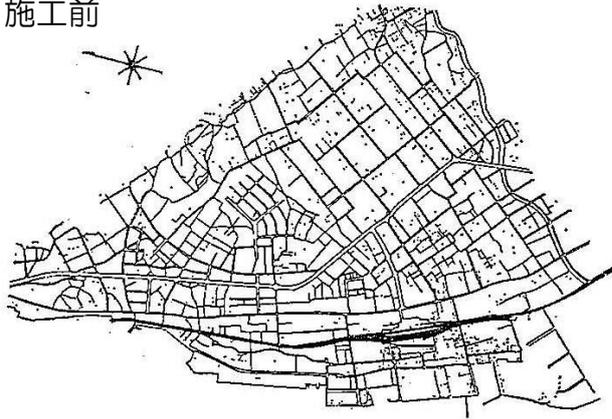
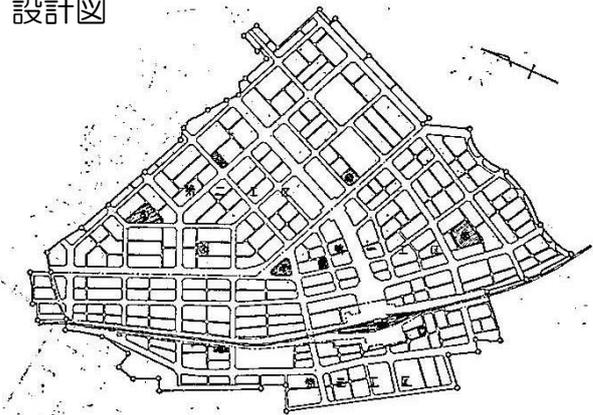


図 徳山市戦災復興土地画整理施行の前後

施工前



設計図



## (2) 中心市街地周辺の主な地域資源

### 1) 歴史的資源

〔児玉家屋敷跡、児玉大将産湯之井戸〕

司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』で知られる明治時代の陸軍大将・児玉源太郎は、嘉永5年（1852年）2月25日にこの地にあった児玉家の屋敷で生まれた。当時使用していた井戸が保存されており「児玉大将産湯之井戸」の標石がある。

児玉家は源太郎の父・半九郎の死後、源太郎が幼少であったため、浅見栄三郎の次男・次郎彦を養嗣子に迎え、次郎彦は後に源太郎の姉・久子と結婚した。次郎彦は藩の大目付等を務めたが、「正義派」の一人として活動したため、元治元年（1864年）8月12日早暁、「俗論派」によってこの屋敷の玄関で非業の最期を遂げた。次郎彦の死後間もなく、児玉家は藩の命令で家名断絶、屋敷は没収されたが、「正義派」が政権をとるや、慶応元年（1865年）7月13日、源太郎が家名を相続し、現在、児玉神社がある場所に新しい屋敷が与えられた。その後、源太郎は元の屋敷跡を買い戻して、明治36年（1903年）に郷里の後進育成を願い近代的な私立図書館「児玉文庫」を開設したが、昭和20年（1945年）、太平洋戦争中の徳山空襲で焼失してしまった。

〔児玉神社〕

児玉神社は、大正12年（1923年）に地元有志の発起により、児玉源太郎を祭神として創建された。社殿は、神奈川県江ノ島に建設されていた神殿と附属建物を移し、児玉将軍旧邸である現在地に建立したものである。境内には「徳山七士碑」、後藤新平の筆による「徳足以懐遠」、李登輝の筆による「活氣長存」、児玉源太郎薨去の際の「御沙汰書」、後藤新平の「児玉神社参拝記念碑」、歌碑「山縣元帥の児玉大将の死を惜しまれたる歌」など児玉源太郎ゆかりの記念碑が多数建立されている。

また、神社の西側の市道内には、大正14年（1925年）に台湾から取り寄せた珍しい松の木「台湾ゴヨウ」がそびえている。

〔徳山藩館邸跡〕

元和3年（1617年）に都濃郡・熊毛郡内の三万石あまりを領地として分け与えられた毛利輝元の次男・就隆は、慶安3年（1650年）、交通の便に恵まれた野上村に館を移し、地名を「徳山」と改めた。徳山は城下町として発展していったが、三代藩主元次の